第61回長野県図書館大会

期 日 平成23年10月22日(土)

開催地 上田市

分科会記録

24 11 Ed HE13:	
第1分科会	図書館の情報サービスの現状と今後のあり方について
第2分科会	生涯読書活動と子ども読書活動の推進について
第3分科会	より多くの情報を共有する読書環境の提供をめざして
	~録音図書を便利に利用していただくために~
第4分科会	(1)心の育ちを願った絵本体験
	(2)物語の世界を楽しむ
第5分科会	司書教諭の仕事
第6分科会	司書教諭と学校司書
第7分科会	学校司書の仕事
	~学習を支援する学校図書館に~
第8分科会	読書指導の実践
第9分科会	利用指導の実践
第10分科会	学校図書館の運営
第11分科会	(1)図書館を利用した授業の記録から
	(2)図書委員交流会のあゆみ
第12分科会	大学図書館の広報活動について
第13分科会	幼児から大人までの様々な読書を楽しむ ~パネルシアター・中学生向け
	読み聞かせ・視覚障害者向け音訳~
第14分科会	体験してみよう!ブックトーク
第15分科会	本との出逢い、人との出逢い
	~こどもと本のかけはしになりたくて~
第16分科会	カタリベカフェへようこそ

第1分科会

図書館の情報サービスの現状と今後のあり方について

助言者:宮下明彦(図書館協会事務局長) 司会者:牧内和人(飯田市立中央図書館) 発表者:北澤梨絵子(塩尻市立図書館) 飯島貞夫(東御市立図書館)

1 発表の概要

<塩尻市立図書館> ~データベースについて~

- ・昨年7月、塩尻市市民交流センター(えんぱーく)内の1,2階に開館した図書館である。
- ・重点的に収集対象とした資料は、塩尻市の特色を出せる資料(短歌・ワインなど)、行政資料(広報誌・パンフレット類など)、郷土資料(市や県関係)、雑誌(400 タイトル)である。
- ・上記の諸資料は、単に収集するだけではなく内容細目や目次情報をデータベース化して活用しやすくしている。そのためにデータベース講習会を開催したりPRにも努めている。 今後、データベースの数を更に増やして他図書館とも共用できるようにしていきたい。これらは、レファレンスでも活用できる。

<東御市立図書館> ~ I Cタグ導入の現状について~

- ・現在、新図書館を建設中でICタグの導入を計画している。また、そのための研究や視察 研修等を行ってきている。
- ・上田地域図書館情報ネットワーク(エコール)内では、I C タグ化による連携強化について協議をしたり、調査研究をしてきている。
- ・県内では、ICタグを導入している図書館はまだ数館に過ぎないが、利用者サービスの向上(貸出手続き時間の短縮やプライバシーの保護など)、図書館業務の軽減(貸出業務の軽減や蔵書点検などの図書整理の省力化)、盗難防止という点で導入効果があるとされている。

2 討議の概要

- ・各館におけるボランティア(サポーター)の実情について <情報交換>
- ・助言者:地方図書館では、データベースの利用は非常に遅れている。図書館より民間企業の方の方が自らの仕事に活用している。データベースには二種類あり、ひとつは商業用のもので、もうひとつは図書館自らが作成すべきものである。図書館職員が、スキルアップをしていかないと、世の中の動きに遅れてしまう。国立国会図書館の諸情報は、やがて各家庭でも利用されるようになるであろうが、当面は図書館にアクセスできるようにしたい。
- ・既にICタグを導入しているが、貸出手続きは速くなった反面、蔵書点検時に思わぬ点で 問題が生ずるなど、館の実情によっては、必ずしもメリットにはなっていない面もある。

3 まとめ(助言者の指導を含む)

- ・ICタグの導入など今後の図書館における機械化を職員の人件費削減へとしないで、職員 のレベルアップをはかり、その余力を利用者サービスに振り向けるようにしていきたい。
- ・図書館利用が少ない社会人にもっと図書館を利用してもらえるよう課題解決サービスを充実させたい。そのためのハイブリッド図書館(紙媒体と電子媒体との組み合わせ)という点では遅れている。ハイブリッド化に向けてハード面では行政にその必要性を訴えていくとともに、ソフト面では我々の能力アップをはかるための研修をしていきたい。
- ・「市町村誌目次情報データベース事業」がまもなく完了するので、各図書館においては、そのリンクを貼って使えるようにしてほしい。今後は、その他の郷土資料のデータベース化も計画しているので協力をお願いしたい。

第二分科会 「生涯読書活動と子ども読書活動の推進について」

助言者:手塚 (図書館協会副会長)

司会者:山崎五十夫(市立須坂図書館長)

発表者: 宮坂米子(長野市立図書館)

小島佐和子(中野市・おはなしびっくりばこ)

1. 発表の概要:

<長野市立図書館>

- ・子供にとって図書館とは社会構成員となる最初の場。 自分の名前で自分の意思で本を借りる。
- ・子どもに対しても大人に対しても図書館職員の本に対する知識が重要で、司書の**資質**向上が欠かせない。問い合わせの内容・レベルが異なり、求めるものにたどり着く説明が必要。
- ・児童の本を大人への流れ。読み聞かせ活動の活発化による問い合わせの増加。要・知識。
- ・蔵書構成が重要。「見計らい」も利用。資料室が担当、他部門(障害、カウンター)との連携を 行なっている。(24人が担当分け) 新鮮で確実な資料の提供を行なうことが大切。
- ・パスファインダーの作成(こども版、入門編など)。調べる、探す手法説明リーフレット。
- ・テーマによる図書リスト作成(年間・毎月・自由研究) 標語に沿い、テーマを作る。
- ・通年計画にてボランティア、図書館職員による実施。 イベントとしてお楽しみ会6回開催。
- ・中・高・大学の職場体験実施。図書委員の見学会。中学の夏休みの課題でボランティア受け入。
- ・おひざで絵本事業 (ファーストブック) 選定委員会に図書館職員も参加。
- ・カウンター作業を通して「相手の立場、気持ち」の判る人に。図書館は子育ての場。

<おはなしびっくりばこ>

- ・ボランティアと図書館の関わりでは、素人のお話会は図書館に頼るところが大きい。(場所の無償提供、内容のアドバイス) 図書館とは相互扶助の関係。
- ・資質の向上に関しても不特定多数の子供達への提供内容の選定など、しっかりしたものを持っておかないと子供達のマイナスになる。子供達のみでなく障害者・児への実施もあり、図書館の支援は必要。
- ・中野市立図書館では「おはなし会をする人の為の講座」を開催している。
- ・子供たちへの読書活動をしながら、自分達も勉強・読書活動をしている。(生涯読書活動)
- ・臨時職員の資質向上も期待する。
- ・「3匹のこぶた」読み聞かせ。しっかりした本を伝えることがボランティアにとって重要。
- ・子供達とのコミュニケーションのためにも男性の読み聞かせをして欲しい。

2. 討議の概要

- ・団体貸出は小・中・高、ボランティア対象、クラス貸出、移動図書館などにより各市対応。
- ・資質の維持・向上に関しては、非正規職員の方は雇用期限制限があり、ベテランが育たない環境がある。(5年~8年) 学校図書館と公共図書館の合同採用・移動のある館もあり。
- ・塩尻市は図書館司書とは別に、読書推進アドバイザーとしての職務がある。 職務はボランテ ティアへの読書活動の支援、職員のSKILL UP、学校訪問、イベント企画・実施など。 職員のコミュニケーション力の向上が必要。相手が何を求めているかの理解を。
- ・こども読書推進計画に進展状況はどうか? 計画に対し具体的成果は上がっているのか? 管轄部署が市によって異なっており、検証する組織が必要。
- ・公共図書館・学校図書館/学校とボランティアとの連携が重要。
- ・中野市 教育委員会・教育指導員制度(年間計画による小学校での読み聞かせ 11 校、11人)
- ・読育ボランティア・ネットワーク立ち上げ。資質向上のため講師を呼んで研修を行なっている。

3. まとめ (助言者の指導を含む)

- ・団体貸出においては遠隔地・高齢者・施設・公民館・児童館などへの配本のための条件整備が 必要。(分館・車両も含め)
- ・現状の図書館は非正規職員で支えられている。 働く条件が厳しくなっている環境。 指導しながら職員としての仕事をする状況。今後充実の働きかけが必要。
- ・注目すべき制度として読書推進アドバイザー(塩尻市)があり、図書館・ボランティアの連携の要として位置づいている。読書指導員(中野市)も学校の長期的活動として評価できる。
- ・こども読書推進計画に関しては、各市町村ならではのものを、住民の意見も盛り込み、じっくりと計画を立てることが大切。 行政は一歩退き、条件整備を計画に盛り込む。

第3分科会 より多くの情報を共有する読書環境の提供をめざして

~録音図書を便利に利用していただくために~

助言者:增沢雅彦(長野市立長野図書館)

司会者:町田朋子 (上田市 音訳ライブラリー「つくしの会」)

発表者:山嵜庸子 (上田市 音訳ライブラリー「つくしの会」) 西澤達夫(上田市 ㈱シナノケンシ(プレクストーク開発販売))

大倉みつ子(上田市 音訳ライブラリー「つくしの会」)

1 発表の概要

<発表タイトル「音訳図書の貸出をして気づいたこと」> 発表者 山嵜庸子

- ・録音図書利用者が高齢化。施設に入所したり死亡されたりして利用が減っている。録音図書がたくさん遊んでいるので利用拡大の良い方法はないか。
- ・貸出の際、利用者の好みやニーズに応えられるために、担当者(職員)は長い期間異動しないほうがよいのでは。
- ・現在、録音図書はテープのみの貸出だが、デイジー化が進んでもデイジー機器に対応できない利用者がたくさんいる。個別に講習をしたり、 機器の貸出等も図書館で検討してほしい。

<発表タイトル「デジタル録音機器の紹介とこれからの展望」> 発表者 西澤達夫

- ・1993 年 カセットテープでは聴きたい場所がすぐに出せない事をきっかけにして、デイジー機器の'プレクストーク'の開発が始まった。ディジーはページの見出しがついているので検索性が高く便利である。
- ・プレクストークに無線LAN機能がプラスされた新機器が開発された。'サピエ'(点字・音声データ提供ネットワーク)と直接つながる。=パソコン不要。CD等の媒体の行来が必要ない。(実際に'サピエ'に接続し、新機器のデモンストレーションあり)
- <発表タイトル「天声人語」デジタル化への歩み> 発表者 大倉みつ子
 - ・「つくしの会」では平成4年より朝日新聞の「天成人語」を1週間分ごとに音訳し、カセットテープでの貸出を始めたが、図書館からのデジタル化の意向を受け、平成21年度よりデジタル化に向けた専門委員会を発足し、平成22年5月よりCDの貸出開始となった。
 - ・デジタル録音技術等の習得までには苦労もあったが、利用者からとても便利になったとの声が届いている。
- ・「天声人語」は本読み前の会員が中心になっており、録音図書作成の勉強の機会となっている。今年度11月からは信濃毎日新聞の「斜面」も 音訳を始める。 (途中、つくしの会顧問の原山さんよりデジタル録音のデモンストレーションあり)
- ・途中失明した方が録音図書を聴き、「耳から読書ができる喜びを知った」という話を聞く機会があった。私達もお役に立てているんだということを知り力をもらった。また、つくしの会先輩から「音訳に関わることで多くの事を学ばせていただいている」との言葉をいただいている。

2 討議の概要

- ・飯田図書館では、介護者やヘルパーなど利用者周辺の人たちへの'デイジー'の啓蒙が必要と感じており、デイジー機器の説明や講習を施設へ直接説明に出向き行うなどの検討をしている。他の図書館ですでに実施しているところはあるか。→参加者中では無し
- ・サピエの利用は有料か。また誰でも利用できるのか。→無料だが、サピエに登録が必要なため一般の人の利用はできない。またインターネット環境の整備も必要。
- ・天声人語を聴いているが、人名の読みに誤りがあった。下読み等は実施されているか。→何回か下読みし、調査をした上で録音している。校 正もしているが、人名・地名の読み方は非常に難しい部分がある。

(以下は当日参加していただいた録音図書利用者の方からの意見)

- ・平成3年のプレクストーク開発時から立合わせていただいているが、新しい機器が出る度に「こうなってほしい」という希望をしていたことがどんどん叶っている。読書環境が非常に良くなっている。
- ・点字を使える視覚障害者は視覚障害者全体(35万人)の13%程度。録音図書が大事になる。
- ・プレクストークを10年前より利用。今後サピエも利用したい。
- ・録音図書を利用するなかで、耳から聴くのも'読書'であると気づいた。読み手から伝わる感動がある。天声人語を利用しているが、大変に 素晴らしい。ただ聴くだけにはもったいない。この頃は週刊誌もデイジーになっていて有難い。また盲人用郵便が無料であり、たくさん借り ることができ有難い。
 - ・デイジーはカセットよりも音質がいい。探しやすい。図書館大会は毎年県内各地で開催されるので、長野県内の状況も聴いてみたい。

3 まとめ (助言者の指導を含む)

- ・今日の発表の順番を、西澤さん(デイジーについて)→大倉さん('天声人語'デイジー化への歩み)→山嵜さん(貸出の現況)にしたら話が繋がっていきよかったのではないか。
- ・著作権法の改正(2010年1月)により録音図書を利用できる人の範囲が大変広がったが、盲人用郵便(無料)が適用されない方の郵送料が課題である。
- ・図書館で録音図書を作製し貸出をしている事(図書館の障害者サービス)やデイジー図書について知らない方が非常に多い。→これから私 たちはどのようにしていけばよいか。
- ・デイジーについて「どういうものか」「どうしたら使えるのか」「再生機はどうやって買うのか」などについて積極的に普及していかなくて はいけない。現在、デイジーを使っている方の口コミというのも大きいのではないか。
- ・デイジー化には利用者の高額な再生機の購入や操作方法の習得など、課題が多いが、図書館だけでなく、プレクストークの貸出と操作の説明をしてくれるグループ(上田市では'グリーントマト')を多く作ったり、シナノケンシで講習会を開くなどの検討をしてはどうか。
- ・利用者拡大には、視覚障害者協会へのチラシ配布や説明に出向く、市町村の福祉課・民生委員への周知、福祉ネットワークへの呼びかけ 盲学校や教育機関の先生・保護者への PR など様々な方法が考えられる。
- ・上田図書館では録音図書利用者の住所地の制限を設けていない。素晴らしいこと。
- ・録音図書のない図書館も、他館から借りたものをコピーして所蔵し、貸出ことができるので大いに利用してほしい。
- ・長野図書館では、「図書館便り」で新作録音図書はもちろん新刊図書案内やサピエ図書館で人気のある図書の紹介などを載せ音訳している。 活字の読めない方へ図書の情報提供をすることも重要。
- ・カセットテープの利用者がいる限りテープでの貸出のサービスを続けることは自信をもってやって欲しい。しかし、カセットテープが生産 中止になることも踏まえ、上田図書館でもデイジーの貸出に取り組んでいってはどうか。
- ・横のつながりをもっと広げていけばできることが増えてくる。図書館やグループだけではできないことも力を貸し合いながら、焦らずあきらめずに、これからやっていかなければいけないのではないか。

第4分科会

- (1) 心の育ちを願った絵本体験
 - (2) 物語の世界を楽しむ

助言者:稲垣勇一(上田図書館倶楽部理事長)

司会者:須賀ふき子(上田市武石保育園)

発表者:(1) 翠川あや子(上田市長瀬保育園) (2) 勝野千恵美(上田市さなだ保育園)

1 発表の概要

<上田市長瀬保育園>

・ 絵本に親しみ絵本の世界を楽しんでもらえるように、読み聞かせを大切にしている。

- ・ 絵本のよさを家庭に伝え、心を育てる絵本を園と家庭とで共有できるように園内研修をした中で、絵本を与えるための環境の見直しをし、年齢にあった絵本選びをする。
- ・ 絵本の素晴らしさをクラスだより、絵本だよりとして全家庭にむけて発信する。
- ・ 保育士自身も読んでもらう心地よさを体験し、落ち着いた環境の中で、絵本を大切にし た保育実践を積んでいきたい。

<上田市さなだ保育園>

- ・ 子ども達に聴くことの心地よさ、絵本の世界を楽しんでほしいと願い、週に1度絵本の 会を設けたり、参加型保育の時に保護者にも子どもの前で、選んできた絵本1冊を読ん でもらうようにした。
- ・ どの子も物語の世界を楽しみ、想像の世界を楽しめるようになり、さらに自分達の地域 にお話の世界を広げてみた。
- ・ 「ぞくぞく村」の絵本に出会い、子ども達の興味の幅を広げるように、保育士がいろい ろな仕掛けをするが、その際に保育士の連携と活動における願いや方向性を統一するこ とが大事で「子どもが主体」ということを意志統一した。
- 2 討議の内容(子どもにとってよい本とは、どんな本を選ぶのがいいか)
- 読み聞かせの参加者増えないのが現状→家庭での理解がないと無理。発信の難しさ感じている。
- ・ 園と家庭との温度差をどう埋めていったらよいか、本選びに迷う親→親へ継続的な発信と読み聞かせの楽しい体験をしてもらう。よい絵本の紹介。
- ・ 小学校での読み聞かせ・本選びは、大きい学年でも簡単なものでもよいのでは。(昔話)
- 年長児も下の年齢の本を読むことで、ほっとすることもある。
- ・ 小学生でも自分に合う本を選べない子もいる→読書嫌いでも読んでもらっていること は楽しい。→色々な本を与えたい。→読むことの楽しさにつなげたい。

3 まとめ(助言者より)

- ・ 絵本には主食となる、おやつとなる、毒になる本とがある。よい絵本とは保育指針にも 幼児の心理を科学的に明確に表されているので「発達年齢にあっているからこの本が合 う」とプロとしての意識を持って、確信して選べるようになってほしい。
- ・ 発達段階をきちんと記録して子どもの状況を把握した上で、絵本を通し発達保障をして、 保護者や次の担任につないでいく必要がある。
- 自分もたくさんの絵本を読み、子どもの魂の動きがわかる本を選べるようになる事。

第5分科会 司書教諭の仕事

司会者:米山郁子(長野市通明小学校)

発表者:米山郁子(長野市通明小学校) 一ノ瀬文枝(茅野市湖東小学校)

野澤由理香(須坂市日野小学校)

- 1 ワークショップ講習・演習
 - ○「本で調べてほうこうくしよう」(光村出版3学年) 16時間扱い
 - ① 調べることを決める。・・・紙芝居「テーマの決めかた」赤木かん子著参考
 - ② 百科事典や図鑑などの本を使って調べる。
 - ③ 調べたことをほうこく書にまとめる。
 - *3年生から調べ学習が始まり、百科事典や図鑑の使い方の学習や調べたことを文章にまとめるなど内容が豊富になっている。
 - ○ワークショップ 「図鑑オリエンテーリング」

図鑑は、鳥・魚・昆虫などを図や絵や写真などでくわしくわかりやすく説明した本 昆虫のことを調べたい・・・昆虫図鑑 動物のことを知りたい・・・動物図鑑

- ①目次や索引について学習し、二人一組で図鑑オリエンテーリングに挑戦する。 <オリエンテーリングの感想>
 - 答えがわかってすっきりした。
 - ・図鑑で調べたとときに、答えがわかることも大切だが、その周辺情報に目がい くことが紙媒体のよさ。
 - ・6年生だと問題作りができる。
- ②学研ニューワイドを使って、問題作り
 - ・実際に自分たちでも1冊ずつニューワイドの図鑑を見ながら問題を作って、印刷してもらった。
- 〇ワークショップ 「百科事典の使い方」

紙芝居「百科事典の引き方」 赤木かん子著参考

『ポプラディアで Let`s 調べ学習』

- ・百科事典の名称を覚えて、使えることが大切。 「背」「小口」「つめ」「はしら」「見出し語」
- ・第一段階として、定義(意味のきまり)を書き写す。(一つ目の「。」までの文)
- ・第二段階として、各項目ごとの課題についてまとめを書く。
- ○英語絵本を使って小学校英語

「Who's Behind Me? うしろにいるのだあれ (英語版)」を使って

①物語を伝える活動

Who's Behind Me?は、1ページに1センテンスの内容であり、絵もわかりやすいため、英語を始めたばかりの小学生の学習に有効な絵本。

②動物や物の名前、色などにふれる活動

絵本を開き、"What animal? "などと子どもに質問し、その動物、あるいは次に登場する動物がなにかを考えさせたり、言わせたりする。

2 まとめ

- ・国語の教科書の内容が非常に豊富になってきていることを実感した。
- ・今後、自分が司書教諭として実践できる内容の演習だったので、大変参考になった。

第6分科会 司書教諭と学校司書「図書館をもっと活用したい・してもらいたい ~そのためにこれからできること」

司会者:上島 陽子(辰野町立辰野中学校)

発表者: 山名 美子(塩尻市立塩尻西小学校)

由井 尚美(長野市立篠ノ井西小学校)

1発表の概要

【レポート1】「どうやってはかる?読書のステップアップ」

- ・国語の単元学習で、"アニマシオン"や"ダウトを探せ"を活用し、物語の読みを深める指導を 行っている。(例) 3年生国語「白いぼうし」より
- ・長野県クイズを用いて、図書館利用指導を行っている。

【レポート2】「学校図書館を最も身近な図書館として充実させたい…学校司書の試み」

- ・単元学習で使える資料のリストを作成し、学級担任に紹介している。
- ・リストに挙がっている資料を学年(または必要なクラス)へ貸し出している。 (例) 3年生国語「すがたをかえる大豆」

2討議の概要

- ・アニマシオンを行うにあたり、人数分の複本をどのようにそろえるのかが課題だ。→教科書の 作品を使うのが一番やりやすい。
- ・アニマシオンを単元学習にとり入れる場合、その単元の進度のどのあたりで行うのが効果的か? →難易度や何をどうダウトにするかで、導入としてもまとめとしてもとり入れられる。
- ・クラスの実態・学年の発達段階をどう設定するか?
- ・利用指導は一度限りではなく、積み重ねていくことが必要だ。
- ・学校図書館の「学習・情報センター」という役割から、司書から学級担任や教科担任への資料の紹介は大変ありがたい。どんどん働きかけてほしい。
- ・単元学習のための資料を計画的に収集・提供するには、司書も年間指導計画や単元の内容を把握しておく必要がある。また図書館に教科書を備えておくことも必至である。
- ・先生方への働きがけが大事であるということがわかったが、なかなか働きがけがしづらい。
- →司書教諭が司書と先生方との仲介役になってほしい。
- ・司書教諭は配備されているが、実際のところ、図書館経営は司書に任せられている学校がほとんどである。
- ・学級担任が図書館の時間をどのように利用したいのかよくわからない。一年度初めに各学級担任の希望を聞く・学級担任に次の図書館の時間をどう利用するか簡単なアンケートをとっている。
- ・学校は図書館に何を求めるのか、図書館の時間の使い方について、学校で話してほしい。
- ・中学校は図書館とクラスとの関わりが希薄になる→教職員向けの図書館便りの発行・クラス貸 し出し・資料リストの提供などで、待っているのではなく、司書が先生に積極的に働きかけてい きたい。また、司書教諭にはその橋渡し役をしてほしい。

3 まとめ

- ・学校において図書館は「読書センター・情報センター・学習センター」として、重要な場所である。その図書館の機能を十分に生かすためには司書と司書教諭の連携が欠かせない。
- ・今回、司書教諭の参加が非常に少なかった。やはり、司書教諭がその役割の重要性を認識する ことが大事である。
- ・司書が学校図書館を"子どもたちにとって、ひとりひとりの居場所となる図書館"として考えてもらえているのがありがたい。

第7分科会

学校司書の仕事 ~学習を支援する学校図書館に~

司会者:山﨑生穂(上田市立城下小学校)

発表者:西路眞知子(王淹村立王淹小中学校)

山岸智子(中野市立南宮中学校)

大沼田眞理子(松本市立芳川小学校)

竹内奈津美 (千曲市立埴生小学校)

望月信明 (安曇野市立明科中学校)

1 発表の概要

- ① 「学校の畑・だいず」―蒔いた・育てた・さあ収穫だ!― 〈王滝村立王滝小中学校〉
- ・使ってもらえる図書館にするために、何を子どもたちが調べたいのか把握するようにしている。
- ・調べる時には、本の書名・著者・出版社を低学年のうちから記録するようにしている。
- ・3年の「すがたをかえる大豆」の単元の本のリストを紹介。コーナーで紹介や王滝の民話。
- ② ブックトーク『仕事~夢を持って~』 <中野市立南宮中学校>
- ・テーマにそった本のブックリストを紹介し、その中から4冊の本のブックトークをおこなった。
- ・「働く人の夢33人のしごと、夢、きっかけ」は33人の仕事に対する夢が語られている。リカ ちゃん人形のデザイナーの一日の仕事の流れや、100才の幼稚園の園長先生も登場している。
- ③ 調べ学習の実践例「図鑑の使い方を知ろう」 <松本市立芳川小学校>
- ・司書の先生との連携、いっしょにスキルアップ、発達段階に応じて段階的に力をつけていく。
- ・低学年は図鑑から「ずかんクイズにこたえよう」など背文字から選ぶ・抜き書きをする、高学年は年鑑から「年鑑の達人になろう」など項目の並び方や検索の仕方などの実践をしている。
- ④ 各校の調べ学習アンケート (小学校) <千曲市立埴生小学校>
- ・ 学校規模に関わらず司書としての悩み、図書館を活用してもらいたいという思いは同じである。 役割の難しさと大切さを再認識。環境づくりと先生方とのコミュニケーションを深めたい。

各校の調べ学習アンケート(中学校) <安曇野市立明科中学校>

- ・中学校では時間の確保が難しく年間を通した計画的な調べ学習が困難であるが、突然の調べ学 習にも対応できるよう、国語や社会、学年行事など予想されることは情報をもって対応したい。
- 2 討議後の発表の概要(8グループで約50分の討議後、話し合った内容を発表しあった)
- A:調べ学習に打ち合わせなしで来られるが、学習進度を子どもから聞いておくとよい。 担任と司書との連絡をこまめに取り合う。(メモも)調べ学習の本を廊下に出すのもよい。
- B:調べ学習に子どもだけで来る時がある。1年生のはじめの時に6年生とペアになって貸し出しをしている。管理職の理解があるので、司書の仕事が進めやすい。
- C:4年生の点字、戦争、米など、定番のものをそろえるようにしている。待っているだけでなく紹介していく。各学校のパソコン導入の状況などを聞くことができた。
- D:国語、社会、理科の教科書を図書館に1冊ずつ置いている。担任の理解を得て、基本的な分類や百科事典の使い方など学習をしている。分類ビンゴやクイズで本の紹介をしている。
- E:読み聞かせの時間を10分、レファレンスの時間も積み重ねてとりスキルアップしている。 養護学校で図書が少ないのでもっとほしい。2校兼務で仕事におわれ要求もさまざまである。
- F: 急に来ることがあるので、年間計画を事前にもらうようにする。事典の調べ方を教えるだけでもやりたい。図書でなくパソコンで調べることが多い。
- **G**:テーマが具体的にならないで調べに来る。司書がどこまで関わるか。子どもに対しての本のアピールも大事だが先生方へやっていかないといけない。本の紛失とその対応、選書の仕方。
- H:美術では題材から下絵まで図書を使用した。他教科でも資料提供できるようコニュニケーションをとっていく。本の紹介と展示の仕方。生徒も先生もみんなが使える図書館にしたい。
- 3 まとめ
- ・司書と先生方との連携をはかり学習情報センターとしての機能をはたす図書館にしていきたい。
- ・県内の先生と話をし、困っていることやよいやり方などを話したり聞いたりすることができた。

第8分科会「読書指導の実践」

助言者:なし

司会者:大林美智代(伊那市立伊那東小学校) 発表者:岸田美和子(長野市立緑ヶ丘小学校) 森祐子(松本市立波田中学校)

1 発表の概要

(森祐子先生(波田中学校))

- ① 実践していること
 - ・朝読書の時間を利用しての学級訪問、読書指導
 - 図書館廊下の掲示物の作成
 - ・学活の時間をもらっての読書指導
- ② 課題
 - ・図書館に関する仕事をするための自分の時間・仕事のやりくり
 - ・職員をどのようにまきこみ、どのように時間をもらうか
 - ・生徒に人気のある本と、自分が好む本との乖離
- ③ これからの読書指導
 - ・集団に向けての読書指導と、個人に向けての読書指導を分けて考えていく 集団へ→情報提供

個人へ→図書館に来た子どもに本を薦める。個人の好みや段階に応じた助言

・日常の中に本を取り入れていく工夫をする。

〈岸田美和子先生 (緑ヶ丘小学校)〉

- ① 図書館利用
 - ・各クラス调1回の図書館の時間を大切にしている
- ② 読み聞かせ
 - ・担任やボランティアの方々による「読み聞かせ」を重要視している。ボランティアは年2 回ほど読書旬間にあわせて来校し、各クラスで読み聞かせを行っている。
- ③ その他の実践
 - 読書マラソンカード
 - ・図書館に書籍の各分類を掲示し、様々なジャンルの本を読むようにカードを配り、多ジャンルが揃った児童の名前を図書館内に掲示する。
 - ・読書旬間中の図書委員による本の読み聞かせや職員による本の紹介。
- ④ 授業における読書指導
 - ・書籍の中から表現を学ばせる(書籍の中の比喩表現)
 - ・本の紹介文を工夫して書く(好きな箇所の抜き書き)

〈読み聞かせについての意見〉

- ・感情や動作を入れずに普通に読む。
- ・担任が発する肉声の読み聞かせが良い。良い読み聞かせに出会わせることも大切。

(図書館についての意見)

- ・調べ学習の中心とならなくともよい。よい本に出会えるチャンスがあるかが大切。
- ・子どもたちの状況によって図書館は運営されるべきである。
- ・「ゾロリ」はあるなら下げた方がよい。悪い本ではないが、学校図書館として何をねらって 運営していくのか。学校図書館に置くべき本があり、子どもたちに紹介しなければいけな い本がある。
- 2 討議の概要

(グループ討議は各校の情報交換となった)

第9分科会

利用指導の実践

助言者 小林康宏 (東信教育事務所指導主事)

司会者 安江 愛 (塩尻市立塩尻東小学校)

発表者 林 宏美 (豊丘村立豊丘南小学校)

平中和司 (南木曽町立南木曽中学校)

1 発表の概要

<林 宏美先生のレポート>

研究テーマ:図書資料や情報を教科学習にどう生かしたらよいか

~市町村パンフレットを資料として~

単 元 名:「長野県の市町村を知ろう」(小学校4学年)

◇授業展開の概要

7月に社会科見学で長野市に行ったことをきっかけに、自分たちの住む豊丘村について興味を持った子どもたちが「村勢要覧」を見て必要なことを情報カードにまとめた。さらに子どもたちの関心は他市町村に広がったため、他市町村についても調べることにした。その際に子どもたちは2人ペアでそれぞれの市町村に手紙を書き、市町村のパンフレットを取り寄せてそれをもとに情報カード、さらには模造紙にまとめ、クラスで発表会を行った。

◇成果と課題

・市町村パンフレットは必要な情報が端的に記載されていて読みやすく、資料として有効である。その一方で市町村のパンフレットが届いてみないと内容がわからないので、やや不安な面もある。情報不足のためインターネットで市町村のホームページで調べたところもあった。 <平中和司先生のレポート>

研究テーマ:探究型の学習をどのように進めていくか。

◇実践事例

- ① 参考図書を使ったクイズ (図書館でのクイックレファレンスにあたるような問題を作り、 図書館内の資料を使って行った調べ学習)
- ② 短歌の調べ学習(各自に割り振られた短歌の意味、技法、作者について二つ以上の図書資料を参考にして行った調べ学習)
- ③ 太平洋戦争中の生活調べ(自分の知りたいことをテーマにして行った調べ学習。パスファインダーの利用、目次・索引の利用、資料の比較についての学習も行った。)
- ④ 行事に関した調べ学習(臨海学習、登山、修学旅行に関わる一人一テーマのレポート作成。)
- ⑤ 環境問題に関する調べ学習(新聞の切り抜きを利用した切り抜き新聞の作成。その後マッピングなどで環境問題のテーマを決めて行った調べ学習)

2 討論の概要

- 図書館を利用した調べ学習の際に、司書の先生とはどのように連携を図っていけばよいか。
- 毎日図書館に行く豊丘南小学校 4 年生の姿から、どうしたら本が好きで毎日図書館に通う ような子どもになるのか。

3 まとめ・助言者の指導

- 利用指導ではどんな力をつけるためにどんな単元でどんな活動をするかが明確になっていなければならない。そのためにも年間指導計画が必要になってくる。
- 子どもたちの意識に沿った単元展開工夫することが大切である。
- ・ パスファインダーを作ることで不足している資料がわかる。それによってどんな資料を補え ば良いかがわかる。

第10分科会 学校図書館の運営

助言者:三澤 ゆり (長野県総合教育センター専門主事)

司会者:石川 久恵 (豊科小学校)

発表者:神農 邦久 (小川村立小川中学校)

金内 薫 (飯山市立城南中学校・常盤小学校)

1 発表の概要

<小川中学校>

・図書館を「学習センター」と呼び、学習ができるような環境作りをしている。絨毯を敷き、集 会活動にも利用。センターから学級文庫を配置し、時々学級文庫の本を入れ替えている。学習 センターとしての位置づけやどのように情報を発信していくかが、今後の課題。

・昨年度、古典や近代文学の一部分を集め「音読小川」というテキストを小・中学校用を作成し 全員に配布した。(万葉集、徒然草、平家物語、夜明け前、論語、漢詩、春の七草など) 木曜日 の読書の時間に全校一斉に音読を行っている。音読から暗唱まで家庭とともに行っている。

<城南中学校・常盤小学校>

- ・学校図書館が、授業で活用されるために、ブックトークや本の紹介の手法を使って協同授業を 行った。(司書と養護教諭で性教育。司書の補助で担任が沖縄の平和のブックトークなど)
- ・パスファインダーを視覚的にまとめたところ、生徒が簡単に資料探しができるようになった。
- ・司書仲間でデータを共有しながら、各校の実践のデータを蓄積し、授業支援資料作成プロジェクトを作った。facebookを通して、多くの人とデータ共有・情報交換ができるようになった。しかし、集中型データ蓄積場所がほしい。長野県全体の司書・司書教諭が連携した資料共有が望まれる。

2 討議の概要

- ・学級文庫で、手軽に読書をしようという気持ちにつながっている。授業の合間に読書ができて よいが、かえって図書館に行かなくなったこともある。
- ・中学校では、読書より癒しにくる生徒が多いので、図書館のあり方を考えていきたい。
- ・子ども達の来館時間が、新学習指導要領により高学年は減ってきた。国語の教科書の紹介本を タイムリーに購入して紹介していくことが有効。
- 書店販売で、子どもたちがおすすめ本をポップで紹介。
- ・中学は、年度当初図書館指導の時間をとってもらい、先生方に指導してもらえるよう資料を用 意。図書館の本を教室の廊下や昇降口に本を並べるようにしている。
- ・司書が授業と連携するために、実際教科書を見ることが必要。学校に予備のものがある。
- 3 まとめ (助言者の指導を含む)
- ・図書の資料探しは、司書に任せがちになってしまうが、授業に合わせて司書と先生が協力して 資料を作成したい。先生方が授業で使える本、使い方など紹介していく。
- ・国語の教科書が大幅に変わった。単元に合わせて紹介本がたくさん出ている。小学2年生で図書の分類を学習する。教科書を見て、学習内容に合わせて図書館環境を整えたい。5年生は「学校図書館改造計画」を書く学習もある。
- ・言語活動を重視した活動が、各教科に入ってきている。教科の根底に言語活動の充実がある。
- ・学校図書館は、読書センター、情報センター、学習センター、癒しの場という機能がある。情報センターという機能をこれから重視したい。
- ・課題探究を重視しているが、探究の仕方のスキルを身に着けさせたい。学校を出た学習も有効 である。

第11分科会 テーマ〔1〕図書館を利用した授業の記録から

[2] 図書委員交流会のあゆみ

司会者: 篠田毅博 (須坂高校)

発表者:[1]中信SLA司書部会 [2] 東信SLA司書部会 ※発表者の個人名は以下に記載

1 発表の概要

[1] 図書館を利用した授業の記録から

最初に・・・ 中信SLA司書部会では各校の図書館を利用した授業の記録を蓄積している

①「図書館を使った授業実践-理数科課題研究のために-」中村典子(木曽青峰高校) 対象:理数科生徒(2年生)。グループでの課題研究及び発表のため、調べ方、レポートの書き 方、プレゼン方法などを学校司書が指導。

②「図書館を利用した授業」 荒井忠幸(豊科高校)

対象 : 選択授業「国語表現Ⅱ」 (3 年生)。 校外のコンテスト(「高校生文化大賞」 「税の作文」

- 等)への応募のため、構想や資料探し、執筆等のため図書館を利用。
- ③「図書館を利用した授業報告」 細澤節子 (穂高商業高校)

対象:商業科研究課題「MBA (リーダー論)」3年生。自分がリーダーだと思う人について調べ研究発表を行う。図書館は資料提供、講評を行った。

対象:商業科選択授業「ビジネスマルチメディア」2年生。課題の詩の一部を使いPR動画を 作成する。図書館は資料提供、講評を行った。

④「絵本について」 酒寄美佳(松本蟻ヶ崎高校)

対象:家庭科授業「保育」3年生。絵本の選書、読み聞かせ方法等の指導を実技を交えて講義。

⑤「環境問題について」 斉藤時子(松本工業高校)

対象:保健授業。環境問題について調べ、新聞を作成し発表する。

[2] 東信地区(佐久・上小) 図書委員交流会のあゆみ

- ①佐久地区 蓬田美智子 (蓼科高校)
- ・ 過去14年分の実践報告 各校の特色が内容に現れる(工業科でのペイパーウェイト作成等)
- ・ 本年度交流会の報告 交流を深めるための作文ゲームが好評であった。新聞エコバッグ作り
- ②上小地区 平沢恵美子(上田東高校)
- 平成元年からの実践報告
- 本年度交流会の報告-文化祭で作成しているアロマキャンドルを作成。図書館クイズビンゴー職員研究会も兼ねている(参加者各自おすすめ本の紹介を行った)

2 討議の概要

- ・ (蟻ヶ崎の発表に対して)講義中のアンケート項目の「人生の中で心に残る本」について、 回答は出るのか→意外と出る。回答により生徒の読書環境が見えてくることもあった。
- ・ 中学・高校間の図書館交流があまりないので、今回新鮮であった。中学でも選書の幅は広いが、高校ではどうなのか。→今回の図書リストが参考になった。
- ・ 中学・高校での選書の違いは→調べ学習ではプラディア等の百科辞典や図版が多い図書が中心。高校では一般向けに読まれる本も積極的に選んでいる。
- ・ (穂高商業の発表について) 商業科の課題研究について、資格取得のコースの生徒も発表を 行うのか→3年生は全員発表。全校生徒の前で発表するため次学年の指針にもなる。
- ・ 課題研究を行っていても発表の場がない学校もあった。先生方でも情報交換する機会があれ ば参考にしてもらえると思った。
- ・ 屋代高校では1学年全員必ず課題研究と発表を行う。発表時のプロジェクター使用は原則。 ひとり10分間で、あらゆるテーマがある。クラス発表の後、クラス代表を選出し、あんず ホールを会場にした学年発表がある。調べることとプレゼンテーション能力を高めるため学 校全体で取り組んでいる。図書館→生徒一人ひとり異なるテーマであるため、あらゆること に対応している。LHRも使用される。不足資料は近隣の図書館等で借りて補足している。

3 まとめ

・各自、今回の発表や討議内容を持ち帰り、それぞれの場で活かしてほしい。

第 12 分科会 大学図書館の広報活動について 司会者 浜 美和子 信州豊南短期大学図書館 発表者 原 猛 長野県看護大学附属図書館

1. 発表の概要

- 長野県看護大学の概要(配布資料に基づき説明)
- 掲示板について ①図書館入り口と ②教育棟1階、学生掲示板の一角 の2箇所にある。
 - ① の内容 利用者の個別呼び出し(ILL・予約本・リクエスト本・外部の催し物案内) 質素、地味(白黒印刷等)、業務連絡、通知に関係ある人しか見ない。
 - ② の内容 開館カレンダー(4ヶ月分・A3版) 延滞督促 (頻度多く取替え)
- 掲示板の改善を平成 23 年 3 月に計画、利用者に見やすいものに (図書館利用の促進:貸出 冊数、入館者の伸び悩み)
- ①の改善点 ・看護や医療に関連した新聞(7 誌)の記事を掲示・目の届かない上部には掲示しない・水平で整然を心がける ・図書館からのお薦め本の紹介・看護医療に関連した新聞記事掲示の評判がよく、他の情報も見てもらえた。
- ②の改善点 ・赤系統の色で統一する・シンプルな閉館時間の表示(イラスト付)・開館カレンダーを2ヶ月・B4版に変更(1月で張替え) ・今週の詩を紹介 ・隔週で雑誌ミニ情報を掲示 ・図書館全体のお知らせ(図書館さんぽ、と命名)
- <u>掲示のポイント</u> ・情報を詰め込みすぎない。余白も考える。 ・色は使うが多色であって も目立たない。・情報は少なくても、更新は多く。・文字のフォントの使い分けをする。イメ ージを大事に、全体のバランスを考えて。・利用者の必要な情報を把握する。・継続が大事。
- 掲示の課題 いかに適度に更新し、それを継続していくか。 ・利用者からの評価と対応。
- 先に発表者が大学部会館に調査したアンケート結果について。(配布資料に基づき説明)

2. 討議の内容

○ 「隣は何を読む人ぞう(略称:ヨムゾー)」の取り組みについて 県内7校の図書館研究会の会員館が運営。決められたテーマに沿って作品(図書)を紹介す る記事を2百字程度で作成。作成者は各大学の学生・教職員・司書が書く。図書の表紙を使 う場合は、各館で著作権許可を得る。Web本棚サービス「ブクログ」に登録。ポスターや チラシは各大学で適宜発行する。「所蔵あり」の統一マークを作成。2010年4月1号~2011 年10月に5号を発行。ホームページからリンクしている図書館もある。

質問 ・著作権処理のやり方について→ 出版社へ直接依頼する。HPに記載があったり、 FAXや電話でOKの場合もある。

- ・全館に記載された図書はあるのか?→所蔵があればマークがついている。
- 象のマークなのはなぜ?→「読むぞう」にかけた。
- 新聞記事の掲載における著作権問題について、意見交換をした。

3. 各館からの報告及び参加しての意見

・カラーで目立てさせる手法が良かった。・マスコットキャラクターを使った方法が勉強になった。・自分の館では、ボランティアがポスターを作ってくれた。・不便をかけたが耐震改修が終わった。・開館カレンダーのミニ版を作って配布している。・大変ためになった。

・ 地域リポジトリについての報告・学認についての紹介

4. まとめ

掲示板を使って広報する場合、利用者が何が必要そしているかを考えて掲示する。利用者の 目線を十分考慮する。 大きさや色についても配慮して、スマートな配置をこころがける。

第 13 分科会 幼児から大人までの様々な読書を楽しむ ~パネルシアター・中学生向け読み聞かせ・視覚障害者向け音訳~

助言者:伊藤理恵(まんまる座)

司会者:西岡加奈子(佐久市岩村田小学校)

発表者:お話の泉(パネルシアター)

小林順子(中学生向け読み聞かせ) 音の会(視覚障害者向け音訳)

1発表の概要

<パネルシアター>

・耳なし芳一:会場内を真っ暗にしてろうそくを周りに置き明りをとる。正面にホワイトボードを置き、パネルポスターを貼ってライトアップさせる。朗読一人、パネル交換2人。

・ないたあかおに:ホワイトボードにネル地をかけてパネルを付けられるようにする。

語り1人、登場人物全てを2人で演出。パネル交換2人。 キーボードを使って場面の様子、変化、心情を表す。

<中学生向け読み聞かせ>

- ・朝の時間の読み聞かせは、重たい話より軽いものを選ぶ。
- ・月に一回勉強会をしている。本の選出は本のリストを使っている。
- ・何故本のリストを使用するのか?新しい本は常に表舞台に出ているが、良い本でも時間が経つと書庫 に埋もれてしまう。あえてリストから選んでいる。
- ・主人公が同じ年齢だと共感出来る。

<視覚障害者向け音訳>

- ・佐久市立中央図書館にて音訳の活動をしている。新聞のコラムを録音し発送してもらっている。
- ・本に書かれている内容は全て録音。Daisy を使用して録音。
- ・流れ→本の選出(リクエストお勧めなどから)・録音・2回の校正(内容が伝わるように)・パソコンで編集作業。 19冊完成。しかし未だ貸出が出来ない(著作権の問題等)
- ・今年中にコラムの発送者へ聞いてもらえるようにしたい。

2 討議の内容

- ・パネルの絵はどうやって作り、著作権の問題は?→絵本からのコピーや、手書きでの作成。著作権の問題はない。(営利的目的ではない事から快く承諾をもらえる)
- ・マイクのリップ音が気になったが→マイクは使用しない時もあるが、今回は音の調整が上手くいかなかった。
- ・折角作った音訳を貸出しないのは勿体ない(上田で音訳活動する方より)→佐久市立図書館だけでな く、上田点字図書館などの大きな施設と関わり、積極的に取り組んで入って欲しい。また、パソコン を使って吹き込むと楽になるとアドバイスをもらった。

3まとめ(助言者の指導含む)

- ・ホワイトボードの使い方がとても良い。ネル地を被せる大胆さ垂直に貼る方法に感動。
- ・月一回の勉強会を行うなど、思いの柱がしっかりしている。
- ・視覚障害のチャレンジドに平等なサービスの実践をこれからも活動していって欲しい。

第14分科会 体験してみよう!ブックトーク

助言者:小林いせ子(長野県PTA親子読書推進の会会長)

司会者:藤沢玲子(長野市PTA親子文庫) 小美濃利枝(長野市PTA親子文庫)

発表者:(1)野路千恵美(同上) ②塚本真紀子(同上)

1発表の概要

ブックトーク

- ① 野路 「たべることはつながること」小学校4年生対象
- ② 塚本 「旅・たび」小学校5年生対象

2 討議の概要

〈発表について〉

感想・質問

素晴らしい発表で大変参考になった。テーマを決めるのが悩みだが、選書の時困った事などは? 回答

- ① 課題本「くさをはむ」ほのぼのとした本でどこを取り上げたらいいか悩んだ。先生のアドバイスで食べる、食べられるというヒントをいただき、そこからふくらませていった。
- ② 課題本「ルドルフとイッパイアッテナ」子供が引き込まれる所がたくさんあって、どこを取り上げていいか逆に困った。本に「思いもよらぬ旅のはじまり」という小見出しがあったので、そこからテーマを取った。

〈ワークショップ〉

参加者を6グループに分けワークシートを配布。「よい絵本」に掲載されている絵本を用意しておいた。

- ☆グループ内で持参した本の中から1冊、またはテーマに共通性があれば数冊選ぶ。
- ✿それに組み合わせる本を「よい絵本」の中から選び計3~4冊にする。
- **☆**①~④を決める。 ①対象年齢 (小学生~大人) ②テーマ ③紹介する本の順番 ④どんな言葉を使ってつないでいくか
- ✿各グループ1名の方に発表していただく。

3まとめ(助言者の指導を含む)

〈発表について〉

何回もねりなおしたブックトークなので、よくできていると思った。

〈ワークショップについて〉

子供の身の回りに話を向けてから本に入ること、本をしっかり見せること、前の本を次の本が

うけるよう、つなぎの言葉を使うこと、表紙の見せ方など、 各グループに指導。

全体的に思いのたけがよく発言されていて聞きごたえがあった。

〈ブックトークについて〉

ブックトークとはテーマを決めてそれにそって本をコマーシャルすること。ブックトーカーが どれだけ子供に近づけるか、子供に近づく言葉、心に響く、イメージが広がるような言葉をい かに使うかが大事。読み聞かせは受け身だが、ブックトークは子供が自ら手をのばして本に近 づく、手に取って一人で本を読むところにつながる、そこが魅力である。





助言者:高橋あや子(長野県 PTA 親子読書推進の会顧問)

司会者:伴美佐子(上小・東御親子読書の会)

発表者:横山佳栄(

1 発表の概要

〈発表者の実践発表〉 塩川小学校での読み聞かせをするようになったきっかけは、PTA の中に「母 親文庫」があり、児童の皆さんにも絵本を読んであげたいという声を学校側に快諾いただけたこと。 読書旬間にはクラスだけではなく体育館で、OHPやパワーポイントを使い、会員で絵本の読みを行い、 全校児童・先生方だけでなく、保護者の方も見に来ていただいたり、地元の TV で紹介していただい たこともあった。現在の活動は、月曜日の朝読書(職員会の時間帯 8:20~8:40)でクラスでの読み聞かせ、 読書週間中(8:20~8:40)全校又は2回に分けての集会での読み聞かせ等。 今後の課題として、ボランテ ィアとはいえ責任ある授業時間内なので、読み物の吟味、研修を積むことが必要。しかしあまり考え 過ぎると足が出なくなる。何より一緒に活動できる仲間がいる喜び→いい絵本に出会える楽しみ、児 童の皆さんと同じ感動を共有出来る時間が持てる素晴らしさ等を多くの方々にも感じて頂きたい。

〈グループ分け後、ワークショップ:6 人(欠席者もあり 4 ~5 人のところもあり)× 7 グループ〉 己紹介、それぞれの立場や活動の様子等、また今後の課題やそれに対する展望等グループ内で話し合 いを行い、発表をした。

2 討議の概要

◎活動 ボランティアや語りのグループ、学校の PTA や母親文庫、OG グループ、図書館職員等立場 も、またそれぞれの会員数も様々 ●読み聞かせ 【保育園・幼稚園】15~20分間 【小学校】・朝読 書 クラス毎で 15~20 分間(10 分間という学校も有り) ・読書週間 1~2 回/年 図書館、体育館な ど。絵本、大型紙芝居、地域のお話、手遊び、クイズやなぞなぞなど、内容も時間も様々。 休み、図書館の時間、等々 【中学校】小学校ほど多くはない。少ないながらも回数が増えたという 所も有り。 ●お話の会、語り・朗読の会 定期的に行われている公共図書館もあり。行う場所(学校、 施設、公共図書館)や時間(昼、夜)、回数、対象年齢も様々。 ●その他 お話カーニバル・お話フェ スティバル、ブックトーク(→紹介した本を図書館に展示)等 ●講演会や朗読講座への参加、各自勉 強会や定例会等を持つなどして勉強、研修。

◎課題 ●選書が難しい 1.昔と違い絵本の数が多すぎて大変。→長く読み継がれている本(成人式 を迎えた本)を選ぶと間違いない。自分が読んであげたい本、伝えたいものがいいのでは。2.良く聞 いてくれるクラスとそうでないクラス。学年によっても様々。→手遊びや、指人形を使うなど。話の 途中に体を動かす等、気分転換。 3.中学生への読み聞かせの本は?また年齢幅が広い場合は? ● 会員が少なくもしくは減り、または仕事を持つ親などで運営・スケジュールが大変。●若い人が少な い。●語り(朗読)は難しい。●責任問題 ボランティアとして入っていくにあたってのルール。災害等 突然の非常事態が発生した場合の対処。等々。

3 まとめ(助言者の指導も含む)

◎選書に関して ・20 年以上読まれている本・重版本(=多く読まれている)・図書館リストの利用・ 本屋のお薦め本・新聞やインターネット等からの検索・季節に応じての季節の本・教科書の中の作者 の本など・想像力、喜びや苦しみ、色々なものを自分のものにして伝えると伝わる。正しい答えはな |◎図書館大会での出会い等あらゆるネットワーク、手段を通じて情報を得る。| ◎大人も子供 も本との出会い、心のよりどころとなる一冊を

第16分科会 カタリベカフェへようこそ

助言者: 関田若菜(本の虫) 高橋順子(love book うえだ)

司会者:山浦美幸 (love book うえだ)

1. 発表の概要

○「love book うえだ+カタリベカフェ」について

- ・ 信州上田夏季大学での活動を経て、2010年3月14日に定期 的な本格活動を始め、現在毎月第2日曜日の午前中、真田中央公民館で会を開いている。
- ・ 真田図書館の開館以前から応援をかねて、真田で開始。より気楽に話ができるようお茶と お菓子を楽しみながらのスタイルをとっている。そのため真田図書館開館後も図書館では なく公民館を会場にしている。
- ・ 新しい読書会の提案としてのカタリベカフェ。今までの読書会は、どちらかというと文学 に特化していて、読書家の集まりといった印象が強く、敷居が高い印象があった。
- カタリベカフェは、今あなたが気になっている本というのがテーマなので、ビジネス書、 写真集、雑誌、漫画、画集、絵本など本のジャンルは問わない。
- ・ できるだけ、様々な人に参加してもらえるよう、チラシやブログを作って宣伝している。 いろいろな専門家が集まることで意外な本が紹介されて、新しい出会いが生まれる。
- 本が主役の会なので、基本的に職業や出身を問うことはせず、「この本が好きな〇〇です。」 というスタイルを大切にしている。常連さんになって自然に本業が知るのも楽しみのひと つ。
- ・ 活動の結果、気軽に本の話をする場を持つことで、人を介しての本との出会いの場が生まれ、読書がより身近になり、図書館の利用促進につながっている。

2. 討議の概要

- 「love book うえだ+カタリベカフェ」へようこそ
- ・ 普段のカタリベカフェを体験してもらうことで、この試みの面白さを実感してもらう。
- ・ 各自お気に入りの本を3冊程度お持ちいただくことをお願いしてあった。
- ・ 初対面でも、リラックスして話していただけるよう、普段のカタリベカフェと同様、お 茶とお菓子も楽しんでもらった。
- ・ 図書館大会の分科会としては少人数でしたが、カタリベカフェとしては人数が大目だったので、間がもたないのではと心配しましたが、お茶の効果もあり、隣り合わせた初対 面の方とも会話でき、終始なごやかな雰囲気だった。
- ・ やはり好きな本の話なので、皆さん熱く語っていただけた。カタリベカフェの特徴でも ある話の上手下手ではない本音トークの面白さを体感していただけたと思う。

3. まとめ

- 「カタリベカフェ」のすすめ
 - カタリベカフェのような新しい形の読書会は、公共図書館、学校図書館などでも取り入れやすいので、今日面白かったと思っていただけたら、次はみなさんの地元で開いてほしい。
 - ・ 学校等で行う場合でも、先生をつくらないこと。本を中心にすえて対等であることとリ ラックスできる雰囲気づくりが重要。
 - 紹介してもらった本は love book うえだのブログにアップしてあるのでよかったら チェックしてください。